

平成28年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(4月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。  ②生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	① Semester制導入に向けた諸課題の整備と調整を行う。  ② 生徒の主体的な学習を促す授業の研究を行う。	① 学校選択科目を見直し、教育課程の精選を図る。  ② 「清南型アクティブラーニング」を確立するための授業研究を行い、その結果を共有する。	① 本校の特徴である、生徒の自己実現や進路選択ができる教育課程になっているか。  ② 各教科で、「清南型アクティブラーニング」とはどのような授業なのか研究できたか。	① 系の科目の解消に伴い、学校選択科目の見直しを行い、教育課程の精選を図ることができた。  ② 研究授業や互観週間、生徒による授業評価を踏まえた教科内研修会や研究協議会を実施し、「清南型アクティブラーニング」を検証した。	① 学校設定科目を10科目廃止し、生徒の自己実現・進路を考えて新たに2科目を設置した。  ② 生徒の理解度や授業時の留意点等を継続的に記録する個別支援シートの運用については、今後の課題である。  ・ 生徒の日本語能力を高めるための教材研究、教材開発は最重要の課題である。	① 単位制フレキシブルスクールの仕組みが中学生や保護者にはわかりづらい、資料や説明を工夫してほしい。  ② アクティブラーニングは、生徒が主体的に活動する形態の授業で、中高で取り込まれるようになった。清南型アクティブラーニングには興味がある。教員対象の授業アンケートを実施するとよい。	① 学校設定科目の見直しを行い、Semester制導入時の基本的な教科方針についても検討し、教育課程の精選を図ることができた。  ② 生徒による授業評価では2年間で最も高い値を得た。  ・ ICT機器を利活用し、学習内容に見通しを持たせ、授業への参加を促すことができたが、効果を検証し、よりよい活用法を模索する必要がある。	① Semester制導入の方向性が確定次第、各教科で具体的な計画を立案する。  ② 参加型の授業を苦手とする生徒が多いという実態を踏まえ、ICTを積極的に利活用して授業への参加意欲を高め、スクールサポーターなどによるT・Tを取り入れた授業改善を実践する。
2 生徒指導・支援	① 多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。  ② 学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	① SC、SSWの積極的活用と連携を図る。  ・ マナーアップを推進する。  ② 文化祭、スポーツ大会等を生徒主体に実施する。	① チューター制度や、相談ポストの存在を周知し、担任も含めた一次的な支援の中から必要なものをSC、SSWにつなげていく。  ・ ポスター等を使い、啓発活動を継続していく。状況に応じた柔軟な巡回指導を行う。  ② 委員会生徒と教員の相談協議の機会を多く設ける。	① 利用状況と教員へのフィードバックおよび、必要に応じてケース会が設定できたか。  ・ 生徒指導案件の内容状況。  ② 自己の役割について振り返りを行い高評価が得られたか。	① 生徒の実態を踏まえて情報モラル教育の工夫をし、一定の効果を得た。  ② 生徒会本部と一部の委員会(図書・保健・選管)は活発に活動した。	① ケース会議が相談体制として校内に位置付けられ機能することが重要である。  ・ 年次内で生徒情報の共有を随時行い、指導・支援を継続する。  ② 活動が停滞している委員会を活性化するために、顧問からの動機づけを行う。	① 多様な学習支援について、充実した内容となっているので、このような研究と実践を推進しているというのは心強い。今後もさらに充実したものにしてほしい。  ・ チューター制度は、相談する内容によって先生を選べるのがよい。  ② 一人でも多くの生徒に参加させることで、達成感や充実感をもたせてやってほしい。	① 担任に限らず年次の教員が常に生徒に声かけし相談にのるなど、登校しやすい環境作りを行った  ・ お知らせメールの積極的な活用が図れた。  ・ チューター制度、相談ポストの利用は低かったが、SCや専門医への相談があった。  ② 学外や文化祭で展示を行うなど、生徒作品の発表の場を設け、自己肯定感の向上を図った。	① SC、SSW及び専門医との連携を充実させ、支援体制を強化する。ケース会議を相談体制として位置づけ機能させ、支援のための具体的な方策を教員間で共有する。  ・ 学校生活のルールやマナーは、保護者にも協力を得ながら継続して指導する。  ② 学校行事に一人でも多くの生徒が参加し、役割を自覚し仲間と協力して行動できるよう支援する。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(4月10日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①キャリアサポート体制を拡充する。  ・「いきる力」をはぐくむ。	①個別の進路計画および、進路相談やチューターの活用を図る。  ・外部の教育力および総合的な学習の時間を活用する。	①個別の進路計画の作成状況。進路相談件数やチューターの活用状況。  ・進路達成状況。	①卒業後の進路を考えさせ、分野別にガイダンスを実施した。  ・若者サポートステーションや学習サポート員の活用、社労士、FP協会等外部との連携でキャリア指導を充実させた。	①進路実現に向け早い時期から情報を流したが、取組が積極的な生徒とそうでない生徒が出てしまった。  ・在籍が4年目以降と3年卒業の生徒に比べ欠席数が多く、そのことが進路、特に就職の書類審査で不利な材料になった。	①卒業後の進路については関心があり、入試の方法について情報がほしい。  ・生徒の進路は多種多様であり、未定やアルバイトで卒業した生徒のその後の進路先を知りたい。	①進路調査を定期的実施し、個々の進路についての意識を高め、担任等との進路相談の活性化を図れた。  ・外部講師による進路説明会や分野別説明会を通して、生徒自らの将来設計ができるようにした。	①将来の目的が不明確な生徒が多く感じられる。生徒一人ひとりの特性に合う進路実現に向けて支援していく。  ・社会に出てから必要となるマナーや一般常識などを身につけさせる講座を開講して支援する。
4	地域等との協働	①地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域の防災活動や地域の学校(小学校や幼稚園など)と積極的に連携に取り組む。  ・日々の教育活動のより丁寧な情報発信を行う。	①学校行事としてだけでなく、学年単位等、機会をとらえて定期的に実施する。  ・ねらいや意図に加え、生徒の様子を丁寧に説明する。  ・生徒の多様なニーズ対応に向け地域連携を広める。	①活動件数を増やし、内容充実できたか。  ・学校説明会等において、本校の情報を得る媒体として、本校ホームページを挙げる人の割合が前年度よりアップしたか。  ・生徒の地域との連携はできたか。	①部活動による地域貢献活動を行った。  ・文化祭で厚木市・厚木警察署と連携し、交通安全活動を生徒会本部企画として実施した。	①活動件数は授業時間確保との調整が必要である。  ・ホームページ等を通じて、日々の教育活動を積極的に情報発信することで、例年並みの学校説明会の来場者数であった。	①小学校の行事に清南生が参加してくれてよかった。今後は小中高の連携を部活動等を通じて連携できたらよい。  ・離れた地域の中学生や保護者には、厚木清南の情報が入ってこないの、ホームページを含めた詳しい情報発信が望まれる。	①単位制フレキシブルスクールの特色や魅力を情報発信するとともに、学校説明会等の工夫・改善を図った。  ・中学生や保護者からもわかりやすいホームページにするよう検討を加えていく。	①地域貢献活動の内容を部活動単位の企画とし、バラエティに富んだ活動にしていく。  ・本校について、より深く理解してもらえるホームページとなるよう工夫する。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。 ②フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①三課程防災訓練を定着させる。また学校安全・安心活動計画を作成する。 ②ポータルサイト活用を進める。	①実施目標を定め、三課程で実施要項を作成する。  ②学校説明会等の実施状況をまとめ、ポータルサイトでの周知を図る。	①実施状況。  ②三課程の活用状況が改善したか。	①三課程の避難訓練は、生徒主体の訓練を実施した。  ②校内ポータルサイトの拡充を図り、教育の情報化を推進し、職員の情報セキュリティ意識の向上を図った。	①授業確保の観点から、訓練の複数回実施は難しい。  ②個人情報等の重要情報の取扱いについて周知を徹底する。	①三課程の防災訓練が、具体的にどのように行われているのか、課題はないか教えてほしい。 ②学校案内のパンフレットは、具体的な長所・短所を盛り込んで、三課程をまとめたものだとわかりやすい。	①防災訓練では、フレキシブルスクール特有の課題があり、今年度は生徒がどう行動すべきかを考えるよう取り組んだ。 ②校内ポータルサイトは、活用状況が格段に向上し、情報共有の要となった。	①三課程で連携した防災訓練については、様々な状況を想定しながら継続して実施する。  ②中学生や保護者に、よりわかりやすくするための工夫をする。